

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

東日本大震災被災者・被災地のため、仙台教区支援及び仙台教区サポートセンター（SDSC）の活動支援に全国から関わってくださるすべての皆さまに

クリスマスと新年のご挨拶を申し上げます

仙台教区サポートセンター長 平賀 徹夫 司教

年が改まる元日を迎えると、心機一転でまたこれから、と気持ちも改まる感じがします。カトリック教会としては、新年の直前にクリスマスの大きなお祝いがあり、神さまの人間に対する深いお計らいに沿って、人と人々が互いに大切にしよう働きを続ける一年とできるように、神さまからの祝福・助け・導きを願い、それに信頼して、新年を迎えたわけです。

昨年も大勢の方々に支援活動に参加していただきました。本当にありがとうございました。私たちは、人道支援の志をもって現地に駆け付けてくださる方、あるいはお心を寄せてくださる方のご助力、ご厚志に深く感謝しながら、力を合わせて支援活動を続けたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災から丸三年。大地震の揺れや大津波による大破壊で、被災地の景観は一変しました。今は瓦礫の撤去・片付けもほとんど終わり、更地となった土地にはポツリポツリと建物が建ちはじめている所も見られるようになりました。しかし、それでもなお、この更地の景観は被災地の苦悩を表し続けているようにも感じられます。さらに、福島第一原発の爆発による放射能被災地にあっては、復旧さえも手つかずに荒れ果てたまま、三年前の無残なままで放置されています。

ところで、景観もさることながら被災された方々の心情は、将来に向かって前向きに希望を持てるようになってきたのでしょうか。親しい方々との突然の別離の悲しみが、いくらかでも癒されてきたのでしょうか。家庭内での関わりや住まいのこと、健康、仕事や収入等の心配は、薄らいできたのでしょうか。お隣さんとの新しい関わりもできてきたのでしょうか。仙台教区の支援活動の中心的コンセプトは、「寄り添い」です。ボランティアのお力がまだまだ必要です。これからもどうかよろしくとお願い申し上げます。

一方、広く他の地方や世界各地でも、台風や異常気象による大災害が頻発しており、その上、内戦や紛争という人災で死者何百人とか数百万人の避難民などというニュースも絶えることがありません。今、世界中で苦悩の中にある人々の数はどれほどに上るのでしょうか。祈りの中でその人々への助けを神さまに願いながら、今、身近なところで私たちにできることを心を込めて果たしていきたい、と思います。支援活動に携わるすべての人に神さまからの祝福がたくさん注がれますように。



米川(南三陸)ベース振り返り

仙台教区サポートセンター 小野 武

12月11日、米川ベースにてカリタスジャパン、仙台教区サポートセンター、および、米川（南三陸）ベース合同で、3年間の振り返りを行った。今回の振り返りは、今後もベースの復興支援活動を継続して、より良い活動とするために、初めての試みとして行われた。

当日は、カリタスジャパンから小野亜衣子さん、米川ベースからは千葉道生ベース長をはじめスタッフ全員、仙台教区サポートセンターからは小松神父と小野が参加。はじめに全員が自己紹介を行った後、次のような項目に分けて話し合いを行った。

◇体験談と思い

震災当初の志津川高校での被災者の避難所生活の様子や、最初は「お茶っこ」の良さが判らなかったこと、瓦礫撤去作業できれいになると気持ちは良いが、そこが道路になると聞くとテンションが下がる、といったそれぞれの思いが話された。

◇地域、および他ベースとの関わり

米川ベースは、津波被害のない地域に所在するため、最初、地元住民に理解されていなかったが、運動会への参加や活動報告会など地域の人との交流を通してわだかまりが解けたこと、米川ベースの活動に

集中し過ぎて井の中の蛙になっていないか、石巻ベース・原町ベース等と交流し視野を広げるように気を懸けていることなどが話された。

◇ボランティアとの関係

継続して関わるスタッフでは言い難いアドバイスを仮設住宅の方へボランティアが言ってくれて助かった。リピーターの方は、作業を任せられるとやりがいを感じ、成長する。漁業支援などは、ボランティアにとって体験学習の場になっており、食卓に海産物が上るまでの工程を体験することで、改めて食の大切さを実感しているようだ。また漁師同士ではいつもあまり話さないが、ボランティアが来ると会話が弾み、現場が明るくなった。ということが話された。



◇社協との関係

ベースと南三陸社協との間には、信頼関係が築かれていることが話された。また、すべての活動に意味があり、地域のニーズとボランティアの関係で、社協以外での活動を考えても良いのではないかということや、社協のビジョンとベースのビジョンが必ずしも一致しないため、ある程度の距離をおいて活動することが必要ではないかとの意見が出された。

◇今後の進め方

仮設相互の交流などの企画があっても良い、被災地の現状を伝えるため、各小教区へ出向いていく必要があるという意見が出された。また、ボランティアの少ない時期にも支障を来さずに活動が出来る体制の確立が必要という意見が出された。

今回、三年間の振り返りを行ったことで、参加者全員の日頃思っていることを情報共有でき、また自分たちの立ち位置の確認にも役立った。一日かけて座談会形式で行ったが、時間が足りなかったようにも感じられた。今後、他ベースでも実施できたら良いと思う。



各カリタスベースのクリスマスの様子

2013年12月に行われた各カリタスベースでのクリスマスの様子についてご紹介します。各ベースとも全国各地からご支援とご協力をいただき、多くの被災者の方々に喜んでいただきました。どうもありがとうございました。震災風化が懸念されている中ですが、今後とも各ベースの活動へご協力いただけますようによりしくお願いいたします。

札幌カリタス宮古ベース

宮古ベースでは、12月22日から24日にかけて、市内の仮設住宅26カ所の一軒一軒にクリスマスプレゼントを配達しました。社協の方にも30カ所に配達していただき、一部地域を除く仮設住宅入居中の1,123世帯にお届けすることができました。

プレゼントは、北海道の修道院で作られたクッキー、バター飴、チョコレート詰め合わせにしたもので、手書きのメッセージが書かれたカードを添えました。

年末の休日ということで、不在の家も多かったですが、多くの方に喜んでいただきました。



プレゼントを受け取って笑顔の
子どもたちとボランティアさん →



カリタス大槌ベース

大槌ベースは、12月に入ってから、クリスマス会の連続でした。

12月1日からクリスマス会が始まり、午前・午後に1回ずつ、仮設住宅の集会室でクリスマス会をし、ベースへ帰宅後は次のクリスマス会の準備に取りかかるという慌ただしい日々でした。しかし、手伝ってくださったボランティアの方々、スタッフの方々、九州をはじめ、関東、関西、その他いたる所から支援物資、支援金を送ってくださった皆さんのおかげで、12月25日までに、仮設など38カ所でクリスマス会をさせていただきました。



大槌ベースのクリスマス会には、1つの大きな特徴があります。それは参加者の皆さんが「着ぐるみを着る」ということです。大人の方、ご高齢の方の中には、はじめ躊躇される方も多くいましたが、クリスマス会の後には「着ぐるみ着るのは、たのしかねえ～」と変わっていききました。「着ぐるみを着る」ということは、どこか心の隅にある「変身願望」を幾分か満たしてくれるものかもしれません。どこの仮設でも、星、トナカイ、サンタさん、その他の動物などになって、みんなで記念撮影をしました。

また、ビンゴゲームでは、司会者の絶妙な話芸に引き込まれ、楽しくビンゴが進みます。「ビンゴ!」の声が次々と上がり、楽しみのクリスマスプレゼントが渡されます。

このプレゼントは、日本全国各地からクリスマスのために送ってくださった心温まる品々を組み合わせ、ボランティアさんたちが準備したものです。

今回は、どのクリスマス会も時間は1時間とし、最後に差し上げるプレゼントは、その日、着ぐるみを着て記念撮影した写真です。みなさん、あらためて写真の中の着ぐるみの自分と出会い、大笑いをしながら受け取って、「またね」と帰って行かれました。



カリタス釜石

カリタス釜石では、お茶っこサロンで伺っている仮設住宅など、約15カ所でクリスマス会を行いました。内容は、ゲーム・クイズ大会、コーラス、ハンドベルやオカリナ演奏、読み聞かせ、手品、クリスマスソングの大合唱、プレゼント配布、美味しいケーキなど各会場で様々でしたが、たくさん歌ってたくさん笑って賑やかで楽しいものでした。参加された皆さんにもとても喜ばれました。

教会の1階にて、毎年恒例となったクリスマスパーティーや、ばしょ前交流館(放課後学習教室)の子どもたちのクリスマス会では、田園調布雙葉学園高校の皆さんが時間をかけてプログラムを準備し、素敵なダンスや歌、ビンゴなどで盛り上げてくださり、外まで笑い声が聞こえるほどでした。

子どもの療育施設のクリスマス会では、アメリカ人のボランティアさんにサンタさんとして活躍していただき、約30名の子どもたちは、サンタさんと触れあって楽しい時間を過ごし、保護者の方には、"サンタさん効果"で部屋から出て行く子どもがいなかったのはすごい！と大変喜ばれました。



来年も来てね！
と大人気だったサンタさん

他にも、手品を披露して子どもたちの心をぐっとつかみ、楽しませてくれたボランティアさんや、スタッフとともに「ハンドベル隊」として演奏し、参加者の皆さんをホッと癒してくれたボランティアさんなど、多くのボランティアさんが力を発揮してくれました。



また、全国から支援していただいたクリスマスプレゼントは、暖かい心のこもった品々ばかりで、プレゼントを受け取った皆さんは、プレゼントを見せ合いながら大変喜ばれていました。

このように毎年クリスマス会を行うことができるのは、多くのボランティアさんと全国からのご支援・ご協力があるからです。改めて感謝いたします。ありがとうございました。そして、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



毎年恒例 釜石教会でのクリスマスパーティー♪

カリタス大船渡ベース

大船渡ベースのクリスマスは、いろいろななかかわりの中で多くの場所でお祝いをする事が出来ました。

大船渡市に住んでいる青年たちと共に企画し運営をした「サンタが町にやってくる！～岩手★大船渡★大作戦～」！大船渡市の子どもたちへクリスマスプレゼントと笑顔届けようをコンセプトに開催しました。プレゼントの配布方法は、メイン会場での配布と市内を8ルートに分けて練り歩いての配布でした。



メイン会場では、外まで続く行列ができ大人と子供合わせて1,000人近くの方に来て頂きました。練り歩きでは、ポイント場所での一斉配布と歩きながら出会った子供たちへの配布と行いました。当初

1,000個用意していたお菓子は足りなくなるほどの賑わいでした。お菓子を配布してくれるサンタさんは市内外からボランティアが100人以上集まりました。子供たちからは、「来年もサンタさんに来てほしい」との声も頂き、来年以降も継続して開催できたらと思います。皆さんも、来年は大船渡でサンタさんになりませんか？

次に、大船渡教会と協力してクリスマスをお祝いしました。海の星幼稚園のホールをお借りして、御生誕のミサとクリスマス会を開催しました。御ミサには、信徒だけではなく大船渡ベースで関わっている方も興味を持たれて参加されていました。100人近くの人でお祝いの御ミサをあげることができたことは嬉しかったです。

大船渡ベースにいるシスターと初聖体の勉強を続け、お恵みに預かることが出来た子供達もいました。

そのあとのクリスマス会では、大船渡ベースとしてBINGOを行いました。たくさん用意した景品はほとんど手に取って頂けて良かったです。



最後に、「カリタス大船渡ベース 地ノ森いこいの家」のホールを利用して、地域の方と共にクリスマスをお祝いしました。昼食会とBINGOで賑わいました。食事は、ボランティアさんと共にミートローフ・ミックスビーンズのマリネ・ポテトサラダ・クリームシチューを準備しました。想定していたよりも多くの方に来て頂き楽しいひと時を過ごして頂きました。BINGOは大人も子供も入り交じって景品を狙い白熱しました。

子供から高齢者まで多くの人の笑顔に出会う事の出来たクリスマスでした。

2014年も多くの喜びに包まれるようにクリスマスを過ごせるよう準備していきたいと思います。

カリタス大船渡ベース
スタッフ 深堀 崇



大船渡ベースでのクリスマス会

カリタス米川(南三陸)ベース

12月25日、米川ベースでは、毎週「お茶っこ」にお伺いしている柵沢仮設住宅の皆さんと、クリスマス会を開きました。

仮設の方々にとって、震災から3年目のクリスマス。共に3回目のクリスマスを迎えることができるということを大切に思いつつ、準備をしていこうと、12月に入るとすぐに、スタッフは小さなプレゼントやクリスマス用飾りの下準備を始めました。

クリスマス会の2週間前には、仮設のおばあさんたちにクリスマスツリーの飾り付けをお願いし、赤や白の飾り、キラキラするリボンなどを楽しみながらツリーに飾っていただきました。



クリスマス会当日、集会所へ到着すると、既に具だくさんのお吸い物や、たらこそばろの煮物などが準備されていました。仮設の方々が、こっそりと作って、待っていてくださったのです。私たちが準備したイタリアでクリスマスの時に必ず食べる「パネッtone」というパン

CTVC カリタス原町ベース

ctvc カリタス原町ベース スタッフ

前田 純

2013年のクリスマスも、CTVC カリタス原町ベースでは様々な行事が行われました。11月30日、ベース1Fにクリスマスの飾りつけをし、12月4日には原町教会のクリスマス準備を行いました。

また、冬期の夜間イルミネーションが盛んだった南相馬市小高区の避難者の方が中心となって、12月1日に市内各地に飾られたイルミネーションの一斉点灯式が行われました。当ベースからは、常連さんが関わっている牛河内第二仮設に参加し、クリスマスソング斉唱のピアノ伴奏をしました。

13日には、イエスのカリタス会シスター7名によるスモール・クワイアーによるミニコンサートが、市内鹿島区の角川原仮設、千倉仮設にて行われました。翌14日、浪江町民が避難している福島市宮代仮設でのCTVC ボラパックに当ベースからも出張参加。スモール・クワイアーも宮代仮設でのクリスマス会に出演し、美しい歌声によるプレゼントを届け、皆さんに大変喜んでいただきました。



17日、常連ボランティアが鹿島区小池小草仮設住宅で、七面鳥ローストや米国家庭料理を振舞うクリスマスパーティーを開きました。初めて見る七面鳥ローストに皆さん大変驚かれていましたが、美味しく食べてくださいました。



バイオリンを披露する島中ベース長



とても大きな七面鳥ロースト！

18日、マリアの宣教者フランシスコ会原町修道院敷地内ログハウスにて、近隣の方が集う「気晴らし会」があり、クリスマスソングなどを歌い、原町ベースの島中ベース長もバイオリンを披露しました。

21、22日には、日本カトリック信徒宣教会(JLMM)主体のJLMMゴスペル・クワイアー12名によるクリスマス・ミニコンサートが、鹿島区の牛河内第一仮設、寺内第一仮設の集会所にて開催されました。

21~23日の間、災害復興共働団体CTB約30名が、市内全仮設住宅に直接クリスマスプレゼントを届ける野心的な「サンタ企画」を実施。当ベースとログハウスを基地にしました。四千人分のプレゼントが用意され、現場では多少混乱も生じましたが、礼儀正しい若者に対し、ログハウス管理のシスター達も感心。

そして原町教会では、24日午後6時半から主の降誕祭夜半のミサ、25日午前10時から主の降誕祭日中ミサが厳かに執り行われました。



ケーキや、シスターが焼いてくださったクッキーなども加えて、みんなで美味しくいただきました。

美味しいものをいただきながら、ビンゴゲームしました。上がった人からクリスマスプレゼントを貰えるという形にして、プレゼントをみんなで楽しみながらお渡しすることができました。

ご馳走をいただいたあとは、みんなの要望に応え、85歳以上の参加者が民謡を歌ってくださり、手拍子と拍手で盛り上がりました。

2013年最後のお茶っ子を、クリスマス会で楽しくすごせたことに感謝しながら、柵沢仮設を後にしました。

←米川ベースに届いた
素敵なクリスマスカード☆

カリタス石巻ベース

今回、石巻ベースのクリスマス会は、スタッフが少なく、準備が思うように進まずに開催も危ぶまれました。しかし、ベース利用者の方などから「今年のクリスマス会はいつですか？」との問い合わせがあり、皆さんがクリスマス会を本当に楽しみに待っていらっしゃることを感じました。

そこで、なんとしてでもクリスマス会を開催しようと、県内はもとより遠くは東京からお手伝いに来ていただき、また各地からプレゼントの支援をいただいたことで、12月13日、ベース1階のオープンスペースで無事にクリスマス会を開催することができました。

今回は諸事情により、平日の金曜日に行うことになったため、参加



してくださる人が集まらなかったらどうしよう…という不安もありましたが、皆さんクリスマス会をとっても楽しみに待っていてくださったようで、24名の方が参加されました。

今回のクリスマス会では、サプライズイベントとして声楽家の生歌やフルート奏者の生演奏がありました。東京から来てくださったお手伝いの方が、知人のフルート奏者と声楽家に声をかけてくださったのです。プロの方の声や音は、とても迫力があり、参加者の皆さんは演奏に圧倒されながらも、とても楽しめたようでした。

また、クリスマス・メドレーと一緒に歌うだけではなく、個人的に「アメージンググレイス」が大好きという被災者のリクエストに特別にこたえて、歌ってくださり、リクエストした人が大感激するシーンも見られました。

参加してくださった方が、みなそれぞれに満足し、「また、来年もクリスマスやりましょうね」と別れました。

翌日には、参加者が「昨日のクリスマス会は楽しかったね」とベースへ来て、分かち合ってくださいたり、プレゼントに入っていたズボン早速着せて子どもとベースへ来られたお母さんもいました。

皆さんに喜んでいただいたクリスマス会ができて、本当に良かったと思います。次回のクリスマス会も楽しみです。



フルート奏者 稲葉さん(左) 声楽家 桜田さん(右)